



## <巻頭言>釧路論集60周年記念号発刊によせて

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2010-03-21 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 蛭田, 眞一 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://hokkyodai.repo.nii.ac.jp/records/8396">https://hokkyodai.repo.nii.ac.jp/records/8396</a>

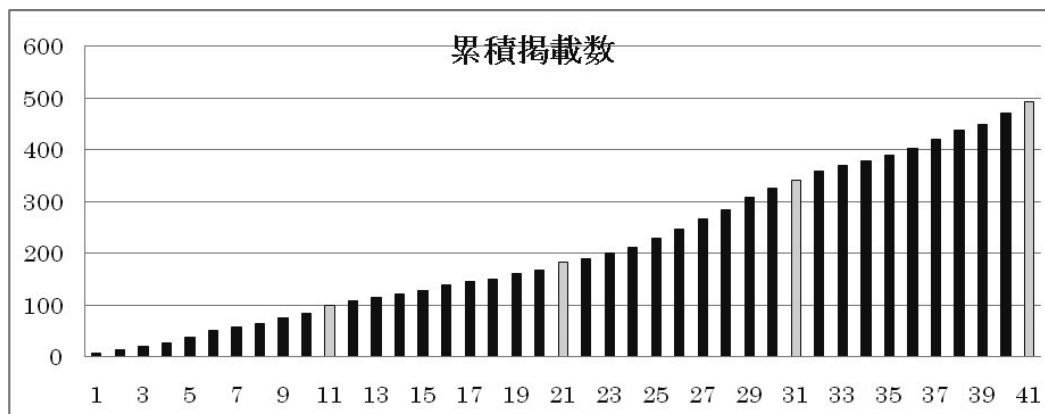
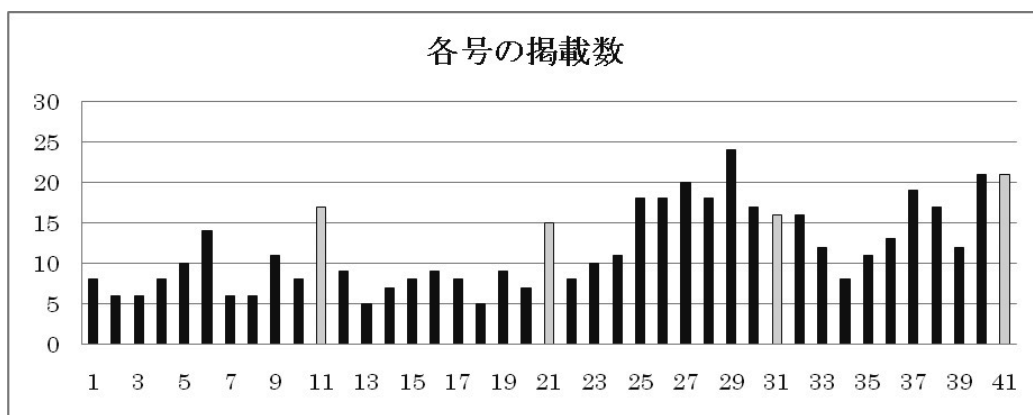
## 〈巻頭言〉 釧路論集60周年記念号発刊によせて

蛭田 眞 一<sup>1</sup>

北海道教育大学副学長 (釧路校担当)

「釧路論集」第41号、北海道教育大学釧路校創立60周年記念号の発刊を皆さまと共に慶びたいと思います。1970年に第1号が発刊され、第11号は釧路校創立30周年記念号、第21号は40周年記念号、第31号は50周年記念号として発刊されています。そして還暦を迎えた本年、60周年記念号と

して第41号が発刊されました。装丁も、サイズで言えば第1号から26号まではA5版、27号から33号まではB5版、34号からはA4版と姿を変え、その時代の要請に応える形で進化してきました。そして、これまでの掲載数は本号を入れて、492で、1号平均12編となります(図参照)。



記念号発刊を機会に、釧路論集全41号の中身を調べてみようと思い、第1号から見ていきましたが、論文等の内容仕分け作業は断念しました。内容が多岐にわたっているからです。考えてみれば当然のことで、人の持つ能力は簡単にカテゴライズできないものです。釧路校教員、附属釧路小・中学校教員、そして学生・大学院生達の持っている守備範囲の広さと多才さが「釧路論集」に形として現れているのです。私個人としては、大学院生との共著でこれまでミジンコに関わる報告書を3編、載せさせていただきました。

また第34号からの装丁変更に伴って、毎年刊行される「釧路論集」は楽しみの一つであり、釧路校の活動を知ってもらおう一つの顔として、その出来栄が気になります。

「釧路論集」がより多くの人々の目に触れ、鍛えられていくことが「論集」の将来にとって大事なことと思います。そしてそのことを通して、「釧路論集」は、これからも釧路校の構成員が持つさまざまな「力」をきっと見せてくれるものと期待しています。